



接続、メニュー、およびシステム バナーの管理

この章では、他のホストへの接続を管理する方法、ルータのユーザ用にバナー メッセージを設定する方法、および特定のユーザ作業のメニューを作成する方法について説明します。

このマニュアルでは、Cisco IOS Release 12.2 で初めて使用可能になったコマンドを扱います。以降のリリースおよび派生のリリースで追加の補足マニュアルが利用できる場合があります。この章で扱うコマンドの詳しいマニュアルを見つけるには、『Cisco IOS Release 12.4 Master Indexes』を使用してください。

特定の機能がサポートされているハードウェアまたはソフトウェアを識別するには、Cisco.com にある Feature Navigator を使用して機能に関する情報を検索します。詳細については、「About Cisco IOS Software Documentation」の章を参照してください。

接続、メニュー、およびシステム バナーの管理の作業リスト

接続を管理し、メッセージとバナーを設定し、ユーザ メニューを作成するには、必要に応じて次の項で説明する作業のいずれかを実行します。この章のすべての作業は任意です。

- 「[接続の管理](#)」 (P.2)
- 「[端末メッセージの設定](#)」 (P.7)
- 「[端末バナーのイネーブル化](#)」 (P.9)
- 「[メニューの作成](#)」 (P.12)

これらの項の例は、章末の「[接続管理、システム バナー、およびユーザ メニュー コンフィギュレーションの例](#)」の項にあります。



接続の管理

サポートされている接続プロトコルすべてに適用できる接続管理アクティビティを設定するには、次の項で説明する作業を実行します。すべての作業は任意です。

- 「現在の端末設定の表示」 (P.2)
- 「端末セッションのエスケープおよび他の接続への切り替え」 (P.3)
- 「接続への論理名の割り当て」 (P.3)
- 「ログイン ユーザ名の変更」
- 「端末へのアクセスのロック」 (P.5)
- 「他の端末へのメッセージの送信」 (P.6)
- 「TCP 接続のクリア」 (P.6)
- 「ルータから開始されたセッションの終了」 (P.6)
- 「ルータからのログアウト」 (P.7)
- 「回線の接続解除」 (P.7)

現在の端末設定の表示

端末回線接続用の現在の設定を表示するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# show terminal	端末用の現在の設定を表示します。

次に、出力の例を示します。

```
AccessServer1> show terminal
```

```
Line 2, Location: "", Type: "VT220"
Length: 24 lines, Width: 80 columns
Baud rate (TX/RX) is 9600/9600
Status: PSI Enabled, Ready, Active, No Exit Banner
Capabilities: none
Modem state: Ready
Group codes:    0
Special Chars: Escape  Hold  Stop  Start  Disconnect  Activation
                  ^x    none  -    -    none
Timeouts:      Idle EXEC  Idle Session  Modem Answer  Session  Dispatch
                  00:10:00  never          none          not set
                  Idle Session Disconnect Warning
                  never
                  Login-sequence User Response
                  00:00:30
                  Autoselect Initial Wait
                  not set

Modem type is unknown.
Session limit is not set.
Time since activation: 00:01:07
Editing is enabled.
History is enabled, history size is 10.
DNS resolution in show commands is enabled
```

```
Full user help is disabled
Allowed transports are lat pad v120 mop telnet rlogin nasi. Preferred is lat.
No output characters are padded
No special data dispatching characters
```

端末セッションのエスケープおよび他の接続への切り替え

接続を開始した後、エスケープ キー シーケンス (デフォルトでは Ctrl+Shift+6 キーを押してから X) を使用して現在の端末セッションからエスケープできます。コマンド文字は、Ctrl キーを押したままでも、Ctrl キーから指を離しても入力できます。また、大文字、小文字のどちらでも入力できます。



(注)

2 つのキャレット (^) 記号が並んで表示されている画面出力例では、最初のキャレットはコントロール キー (Ctrl) を表し、2 番目のキャレットはキー シーケンス Shift+6 を表します。この二重キャレットの組み合わせ (^) は、Ctrl キーを押したまま Shift キーと 6 キーを押すことを意味しています。

デフォルトでは、エスケープ キー シーケンスは Ctrl+Shift+6、X です。ただし、**escape-character** ライン コンフィギュレーション コマンドを使用してエスケープ キー シーケンスを変更できます。エスケープ文字の現在の設定を確認するには、**show terminal** 特権またはユーザ EXEC コマンドを使用します。

複数のセッションを同時に開き、開いたセッションの間を行き来できます。

同時に開くことができるセッションの数は、**session-limit VDPN** コンフィギュレーション モード コマンドで定義されています。

1 つのセッションからエスケープし、前に開いたセッションを再開することでセッションを切り替えるには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** エスケープ キー シーケンス (デフォルトでは Ctrl+Shift+6 キーを押してから X (Ctrl^、X)) を押して現在のセッションからエスケープして EXEC プロンプトに戻ります。
- ステップ 2** **where** 特権 EXEC コマンドを入力して開いているセッションのリストを表示します。現在の端末回線に関連付けられ、開いているセッションのすべてが表示されます。
- ステップ 3** **resume** 特権 EXEC コマンドとセッション番号を入力し、接続を確立します。

リターン キーを押すことで前のセッションを再開することもできます。

Ctrl^、X キーの組み合わせ、**where** および **resume** 特権 EXEC コマンドは、サポートされているすべての接続プロトコル (たとえば Telnet) で使用できます。

接続への論理名の割り当て

接続に論理名を割り当てるには、ユーザ EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# name-connection	接続に論理名を割り当てます。

論理名は、複数の接続を追跡する場合に役立ちます。

割り当てる接続番号と名前を求めるプロンプトが表示されます。**where** 特権 EXEC コマンドにより、割り当て論理接続名のリストが表示されます。

ログイン ユーザ名の変更

現在のログイン ユーザ名を発信アクセス リストの要件またはその他のログイン プロンプトの要件に一致させる必要がある場合は、ログイン ユーザ名を変更できます。このコマンドを使用するには、ログイン サーバが稼動中で、利用可能である必要があります。ログイン ユーザ名を変更するには、ユーザ EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router> login	現在のログイン ユーザ名を変更する目的で、システムに 2 回目のログインができます。

このコマンドを入力すると、システムによりユーザ名とパスワードを要求するプロンプトが表示されます。新しいユーザ名と元のパスワードを入力します。ユーザ名が一致しなくても、パスワードが一致した場合は、Cisco IOS ソフトウェアにより、**login** コマンドで試行された新しいユーザ名でセッションが更新されます。たとえば、**user1** としてログインしたユーザがログイン名を **user2** に変更する必要がありますとします。

```
Router> login
Username: user2
Password: <letmein>
Router>
```

この例では、パスワード **letmein** は初回にログインした際に使用したパスワードと同じです（この例の山カッコは、パスワードを入力しても画面には表示されないことを示しています）。2 回目の Router> プロンプトで、ユーザは **user2** としてログインしていることとなります。

ログイン時にユーザ名およびパスワードが必要となるようにネットワーク管理者が指定していなかった場合は、ユーザ名およびパスワードを求めるプロンプトは表示されません。ユーザ名およびパスワードの両方を正しく入力した場合、セッションは指定されたユーザ名と関連付けられます。

TACACS セキュリティを備えたシステムにアクセスするには、次の手順で示すように、「Username:」プロンプトが表示されたときに現在のログイン名を入力するか、**user@tacacs-server** 構文を使用して TACACS サーバを指定します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Router> login	現在のログイン ユーザ名を変更する目的で、システムに 2 回目のログインができます。
ステップ 2	Username: user@tacacs-server	新しいユーザ名を指定して、 tacacs-server 引数で指定されたサーバでユーザ名を認証します。
ステップ 3	Password: < password >	ステップ 2 で指定されたユーザ名の TACACS パスワードを指定します。

ユーザ認証情報には、指定されたホスト（tacacs-server）だけがアクセスされます。

次に、`user2` が TACACS ホスト `host1` を指定してパスワードを認証する例を示します。

```
Router> login
Username: user2@host1
Translating "HOST1"...domain server (131.108.1.111) [OK]
Password: <letmein2>
```

ホストを指定しない場合、ルータは応答を受信するまでリスト内の各 TACACS サーバを試行します。指定したホストが応答しない場合、その他の TACACS サーバにクエリーが実行されることはありません。ルータはアクセスを拒否するか、または `tacacs-server last-resort` グローバル コンフィギュレーション コマンドが設定されていれば、このコマンドで指定されたアクションに応じて機能します。`user@tacacs-server` 引数で TACACS サーバ ホストを指定した場合、指定された TACACS サーバは以降のすべての認証または通知クエリーで使用されますが、Serial Line Internet Protocol (SLIP; シリアルラインインターネットプロトコル) アドレスクエリーは例外となる場合があります。

TACACS の設定に関する詳細については、『*Cisco IOS Security Command Reference*』の「TACACS, Extended TACACS, and TACACS+ Commands」の章にある `tacacs-server host` グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

ログイン名を変更する例については、章末の「ログイン ユーザ名およびパスワードの変更：例」の項を参照してください。

端末へのアクセスのロック

一時的なパスワードを設定することにより、コネクションを開いたまま端末セッションへのアクセスを防止できます。この一時的なロック機能が動作するためには、まず (`lockable` ライン コンフィギュレーション モード コマンドを使用して) 回線がロックを許可するように設定する必要があります。端末へのアクセスをロックするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで `lock` コマンドを発行します。
このコマンドを発行すると、システムによりパスワードを求めるプロンプトが表示されます。
 - ステップ 2** パスワードを入力します。任意のストリングを使用できます。システムによりパスワードの確認を求めるプロンプトが表示されます。画面がクリアされ、メッセージ「Locked」が表示されます。
 - ステップ 3** セッションへのアクセスを戻すには、パスワードを再入力します。
-

Cisco IOS ソフトウェアは、ロックされた回線上でもセッション タイムアウトを受け入れます。この機能を削除するには、回線をクリアする必要があります。

次に、`lock` コマンドが入力された後に表示されるプロンプトの例を示します。入力したパスワードは画面には表示されないため、注意してください。

```
Router# lock
Password:
Again:
                                Locked
Password:
Router#
```

他の端末へのメッセージの送信

1 つまたはすべての端末へメッセージを送信できます。一般的には、すぐにシャットダウンを実行することをユーザに知らせるために実行します。他の端末へメッセージを送信するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# send { <i>line-number</i> *}	他の端末へメッセージを送信します。* を使用すると、メッセージはすべての端末に送信されます。

システムによりメッセージを入力するプロンプトが表示されます。メッセージの長さは最大 500 文字です。Ctrl+Z キーを押してメッセージを終了します。Ctrl+C キーを押してコマンドを中断します。

TCP 接続のクリア

TCP 接続をクリアするには、特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# clear tcp { <i>line line-number</i> local <i>host-name port</i> remote <i>host-name port</i> tcb <i>tcb-address</i> }	TCP 接続をクリアします。

clear tcp コマンドは、機能していない TCP 接続をクリアする場合に特に便利です。

clear tcp line line-number コマンドは、指定された TTY 回線上の TCP 接続を終了します。この TTY 回線から開始されたすべての TCP セッションも終了します。

clear tcp local host-name port remote host-name port コマンドは、ローカル ルータおよびリモート ルータのホスト名とポートのペアによって識別された特定の TCP 接続を終了します。

ルータから開始されたセッションの終了

セッションを開始するために使用されたプロトコルによって、そのセッションの終了方法が決まります。

SLIP および PPP 接続を終了するには、通常は現在のダイヤルイン ソフトウェアがサポートするコマンドで、ダイヤルイン接続を切断する必要があります。

ルータからリモート デバイスに対して開始された Local Area Transport (LAT; ローカル エリア トランスポート)、Telnet、rlogin、TN3270、または X.3 Packet Assembler/Disassembler (PAD; パケット アセンブラ/ディスアセンブラ) セッションを終了するには、エスケープ キー シーケンス (一部のシステムのデフォルトは Ctrl+Shift+6 を押してから X (Ctrl^X)、その他のシステムのデフォルトは Ctrl+Z) を押し、EXEC プロンプトで **disconnect** コマンドを入力します。リモート システムからのログアウトもできます。

アクティブな端末セッションを終了するには、EXEC モードで **exit** または **logout** コマンドのいずれも使用できます。

Telnet セッションを終了してルータに戻るには、次の「ルータからのログアウト」の項を参照してください。

ルータからのログアウト

ルータとの接続を解除しログアウトするために使用する方法は、ルータに対するユーザの位置、およびログインしているルータ上のポートによって異なります。

端末エミュレーション アプリケーションを実行している端末またはコンピュータがルータのコンソールポートにリモートで接続されている場合は、現在の端末エミュレーション パッケージが使用するコマンドまたはキー シーケンスを発行することによって接続解除します。たとえば、InterCon Corporation の TCP/Connect アプリケーションを実行している Macintosh コンピュータ上では、ユーザ EXEC または特権 EXEC プロンプトで **Ctrl+] キー** を押して接続解除します。

リモートの端末上で、ルータ上の同期インターフェイスを介して VTY に接続している場合は、ユーザ EXEC または特権 EXEC モードで次のいずれかのコマンドを発行してログアウトできます。

- **exit**
- **logout**

回線の接続解除



(注)

セッションを終了するために回線を接続解除することは避けてください。代わりに、ホストからログアウトし、ルータが接続をクリアできるようにします。アクティブなセッションからログアウトできない場合（たとえば、回線のスタックまたはフリーズ）にだけ、回線を接続解除する必要があります。

回線を接続解除するには、EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# disconnect [connection]	回線を接続解除します。

端末エミュレーション アプリケーションを実行している端末またはコンピュータがルータのコンソールポートに物理的に接続されている場合は、ルータのコンソールポートから物理的にケーブルを取りはずすことでも、ルータから接続解除できます。

端末メッセージの設定

システムに接続している端末のユーザに対して表示できるメッセージを設定するには、次の項の作業のいずれかを実行します。すべての作業は任意です。

- 「アイドル端末メッセージのイネーブル化」(P.8)
- 「「Line in Use」(ライン使用中) メッセージの設定」(P.8)
- 「「Host Failed」(ホスト障害) のメッセージの設定」(P.8)

アイドル端末メッセージのイネーブル化

コンソールまたは端末が使用されていない場合にメッセージ表示するようにシステムを設定できます。空きメッセージとも呼ばれるこのメッセージは、ユーザがシステムにログインしたときに表示されるバナーメッセージとは異なります。アイドル端末メッセージをイネーブルにするには、ライン コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-line)# vacant-message [<i>d message d</i>]	アイドル端末メッセージを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。



ヒント

この章全体では、区切り文字 (*d* 引数) の必要なコマンドが共通して使用されます。区切り文字にはどのような文字でも使用できますが、引用符 (") の使用を推奨します。これは、メッセージ自体の中でこの文字を使用することが通常はないためです。その他のよく使用される区切り文字にはパーセント記号 (%) やフォワード スラッシュ (/) がありますが、これらの文字は特定の Cisco IOS コマンドでは意味を持っているため、推奨されません。たとえば、This terminal is idle という空きメッセージを設定するには、**vacant-message " This terminal is idle "** というコマンドを入力します。

「Line in Use」(ライン使用中) メッセージの設定

着信接続が試行され、そのときにすべてのロータリー グループまたはその他の回線が使用中である場合に、「Line in Use」(ライン使用中) のメッセージを表示するようにシステムを設定するには、ライン コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-line)# refuse-message <i>d message d</i>	「Line in Use」(ライン使用中) のメッセージを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

このようなメッセージを定義しなかった場合、すべての回線が使用中であれば、ユーザはシステムが生成したエラー メッセージを受け取ります。このメッセージを使用してユーザにより詳しい指示を提供することもできます。

「Host Failed」(ホスト障害) のメッセージの設定

特定のホストとの Telnet 接続が失敗した場合に「Host Failed」(ホスト障害) のメッセージを表示するようにシステムを設定するには、ライン コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-line)# busy-message <i>hostname d message d</i>	「Host Failed」(ホスト障害) のメッセージを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

端末バナーのイネーブル化

バナーとは、ユーザに対して表示できる情報メッセージです。端末バナーをイネーブルにするには、次の項の作業のいずれかを実行します。すべての作業は任意です。

- 「Message-of-The-Day バナーの設定」 (P.10)
- 「ログイン バナーの設定」 (P.10)
- 「EXEC バナーの設定」 (P.10)
- 「着信接続に対し送信されるバナーの設定」 (P.10)
- 「SLIP-PPP バナー メッセージの設定」 (P.11)
- 「バナー表示のイネーブル化またはディセーブル化」 (P.11)

端末バナー メッセージを表示する例については、章末の「バナーの設定 : 例」の項を参照してください。

バナー トークンの使用

バナー トークンの使用により、バナーをカスタマイズできます。トークンは \$ (トークン) 形式中のキーワードであり、バナー メッセージ内で使用される場合はトークン引数 (たとえばルータ ホスト名、ドメイン名、IP アドレス) の現在設定されている値を表示します。これらのトークンを使用して、現在の Cisco IOS 設定変数を表示する独自のバナーを設計できます。Cisco IOS でサポートされているトークンだけ使用できます。独自のトークンを定義するファシリティはありません。

表 8 に、さまざまな banner コマンドでサポートされているトークンを示します。

表 8 バナー タイプで許可されるトークン

トークン	説明	Message-of-The-Day (MOTD) バナー	ログイン バナー	EXEC バナー	着信バナー	SLIP-PPP バナー
\$(hostname)	ルータのホスト名	あり	あり	あり	あり	あり
\$(domain)	ルータのドメイン名	あり	あり	あり	あり	あり
\$(peer-ip)	ピア マシンの IP アドレス	なし	なし	なし	なし	あり
\$(gate-ip)	ゲートウェイ マシンの IP アドレス	なし	なし	なし	なし	あり
\$(encap)	カプセル化のタイプ (SLIP または PPP)	なし	なし	なし	なし	あり
\$(encap-alt)	SLIP ではなく SL/IP と表示されるカプセル化のタイプ	なし	なし	なし	なし	あり
\$(mtu)	最大伝送ユニット サイズ	なし	なし	なし	なし	あり
\$(line)	VTY または TTY (非同期) 回線番号	あり	あり	あり	あり	なし
\$(line-desc)	ユーザ指定の回線の説明	あり	あり	あり	あり	なし

Message-of-The-Day バナーの設定

接続されたすべての端末上に Message-of-The-Day (MOTD; 今日のお知らせ) バナーを表示するように設定できます。このバナーはログイン時に表示され、すべてのネットワーク ユーザに影響するメッセージ（すぐにシステムをシャットダウンするなど）を送信する場合に役立ちます。これを実行するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# banner motd <i>d</i> <i>message d</i>	Message-of-The-Day バナーを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

ログイン バナーの設定

接続されたすべての端末上にログイン バナーが表示されるように設定できます。このバナーは MOTD バナーの後、ログイン プロンプトの前に表示されます。

ログイン バナーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# banner login <i>d</i> <i>message d</i>	ユーザ名およびパスワードのログイン プロンプトの前にバナーを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

ログイン バナーは回線ごとにディセーブルにできません。ログイン バナーをグローバルにディセーブルにするには、**no banner login** コマンドでログイン バナーを削除する必要があります。

EXEC バナーの設定

EXEC プロセスが開始されるたびにバナーが表示されるように設定できます。たとえば、このバナーは Telnet を使用してシステムにアクセスするユーザが、ユーザ名およびパスワードを入力してから、ユーザ EXEC モード プロンプトが表示される前に表示されます。EXEC バナーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# banner exec <i>d</i> <i>message d</i>	EXEC プロセスが開始されるたびにバナーを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

着信接続に対し送信されるバナーの設定

リバース Telnet 回線に接続された端末上にバナーが表示されるように設定できます。このバナーは、これらのタイプの接続を使用するユーザに対し、指示を提供する場合に役立ちます。リバース Telnet 接続に関する詳細は、『[Release 12.4 Cisco IOS Dial Technologies Configuration Guide](#)』の「Configuring and Managing External Modems」の章で説明されています。

着信接続に対して送信されるバナーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# banner incoming <i>d</i> message <i>d</i>	ネットワーク上のホストから端末回線に接続着信があったときにバナーを表示するようにシステムを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

SLIP-PPP バナー メッセージの設定

デフォルトのバナー メッセージは、他社製の SLIP および PPP ダイアルアップ ソフトウェアの一部で接続の問題を引き起こす場合のあることが知られています。SLIP-PPP バナー メッセージをカスタマイズして、シスコの SLIP および PPP が他社製のダイアルアップ ソフトウェアと互換性を持つようにできます。SLIP-PPP バナー メッセージを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# banner slip-ppp <i>d</i> message <i>d</i>	カスタマイズされたメッセージを表示するように SLIP-PPP バナーを設定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

バナー表示のイネーブル化またはディセーブル化

MOTD および回線アクティベーション (EXEC) バナーの表示を制御できます。デフォルトでは、これらのバナーはすべての回線上で表示されます。このようなバナーの表示をイネーブルまたはディセーブルにするには、必要に応じてライン コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config-line)# no exec-banner	MOTD および EXEC バナーの表示を抑制します。
Router(config-line)# exec-banner	EXEC または MOTD バナーの表示を元に戻します。
Router(config-line)# no motd-banner	MOTD バナーの表示を抑制します。
Router(config-line)# motd-banner	MOTD バナーの表示を元に戻します。

これらのコマンドは、EXEC セッションを作成したときに、ルータが EXEC バナーおよび MOTD バナーを表示するかどうかを決定します。これらのバナーは、**banner motd** および **banner exec** グローバル コンフィギュレーション コマンドで定義されます。デフォルトでは、MOTD バナーおよび EXEC バナーは、すべての回線上でイネーブルです。

no exec-banner コマンドを使用して、EXEC および MOTD バナーをディセーブルにします。

MOTD バナーは、**no motd-banner** ライン コンフィギュレーション コマンドでもディセーブルにできます。このコマンドは、回線上の MOTD バナーをディセーブルにします。回線上で **no exec-banner** コマンドが設定されている場合、**motd-banner** コマンドがイネーブルかディセーブルかに関係なく、MOTD バナーはディセーブルになります。表 9 に、**exec-banner** コマンドおよび **motd-banner** コマンドの組み合わせの影響をまとめています。

表 9 exec-banner および motd-banner コマンドの組み合わせで表示されるバナー

	exec-banner (デフォルト)	no exec-banner
	MOTD バナー	なし
motd-banner (デフォルト)	EXEC バナー	
no motd-banner	EXEC バナー	なし

リバース Telnet 接続の場合、EXEC バナーが表示されることはありません。代わりに、着信バナーが表示されます。MOTD バナーはデフォルトでは表示されますが、**no exec-banner** コマンドまたは **no motd-banner** コマンドのいずれかが設定されている場合はディセーブルになります。表 10 に、リバース Telnet 接続での **exec-banner** コマンドおよび **motd-banner** コマンドの組み合わせの影響をまとめています。

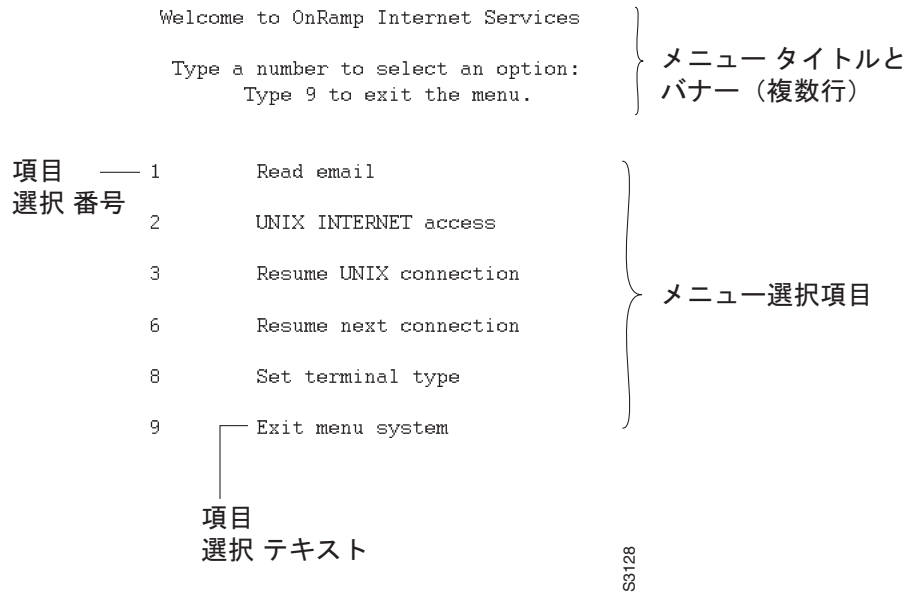
表 10 非同期回線へのリバース Telnet セッションで exec-banner および motd-banner コマンドの組み合わせに基づいて表示されるバナー

	exec-banner (デフォルト)	no exec-banner
	MOTD バナー	着信バナー
motd-banner (デフォルト)	着信バナー	
no motd-banner	着信バナー	着信バナー

メニューの作成

メニューとは、表示されるアクションのリストです。ユーザは、下位のコマンドレベルの詳細を知らなくても、このリストからアクションを選択できます。メニューシステム（ユーザメニューともいいます）は、ユーザがアクセスできる機能を効率的に制御します。図 6 は、一般的なメニューを構成する部分を図示したものです。

図 6 一般的なメニューの例



コンフィギュレーション モードに移行できるユーザであれば、誰でもメニューを作成できます。メニューを作成する場合は、次の注意事項に留意してください。

- 各メニュー項目は、それぞれ 1 つのユーザ コマンドを表しています。
- メニュー システムのデフォルトは標準の「ダム」端末で、24 行 × 80 列形式のテキストだけを表示します。
- 1 つのメニューに含められるメニュー項目は、最大で 18 個です。メニュー項目が 9 個を超える場合、メニューは自動的にシングル スペース メニューとして設定されます。メニュー項目が 9 個以下の場合、メニューは自動的にダブル スペース メニューとして設定されますが、**menu single-space** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してシングル スペース メニューに設定することも可能です (メニューの表示設定オプションに関する詳細については、この章の「[メニュー表示設定オプションの指定](#)」の項を参照してください)。
- 項目キーには、数字、文字、ストリングを使用できます。ストリングを使用する場合は、**menu line-mode** グローバル コンフィギュレーション コマンドを設定する必要があります。
- メニューを作成するときは、ユーザがメニューを終了する方法と、終了後のユーザの行き先を必ず指定してください。たとえば **menu-exit** コマンド (この章の「[メニュー項目の下位コマンドの指定](#)」の項で説明されています) を使用するなどしてメニューからの出口を提供しないと、ユーザはメニューから出られなくなります。

exec-timeout ライン コンフィギュレーション コマンドを使用して、アイドル メニューを閉じ、クリーンアップできます。**session-timeout** コマンドを使用して、接続が開いているメニューをクリーンアップできます。

メニューの作業リストの作成

メニューを作成するには、次の項で説明する作業を実行します。

- 「[メニュー タイトルの指定](#)」(P.14) (必須)

- 「メニュー プロンプトの指定」(P.15) (任意)
- 「メニュー項目テキストの指定」(P.15) (必須)
- 「メニュー項目の下位コマンドの指定」(P.16) (必須)
- 「メニューのデフォルト コマンドの指定」(P.17) (必須)
- 「サブメニューの作成」(P.18) (任意)
- 「非表示メニュー エントリの作成」(P.19) (任意)
- 「メニュー表示設定オプションの指定」(P.19) (任意)
- 「項目ごとのメニュー オプションの指定」(P.21) (任意)
- 「メニューの呼び出し」(P.21) (必須)
- 「コンフィギュレーションからのメニューの削除」(P.22) (任意)

メニュー タイトルの指定

メニューに識別のためのタイトルを指定できます。メニュー タイトルを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name title d title d	メニューのタイトルを指定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

次に、OnRamp メニューが選択されたときに表示されるタイトルを指定する例を示します。タイトルは、次の 4 つの主要な要素で構成されます。

- **menu title** コマンド
- タイトル テキストを開いたり閉じたりする区切り文字
- 画面をクリアするエスケープ文字 (任意)
- タイトル テキスト

次に、図 6 に示したメニューのタイトルを作成するために使用されるコマンドの例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp title %^[H^[[J

Enter TEXT message. End with the character '%'.
      Welcome to OnRamp Internet Services

      Type a number to select an option;
      Type 9 to exit the menu.
%
```

```
Router(config)#
```

タイトル テキストの前に空白文字を入れると、メニューのタイトルの水平位置を決めることができます。Enter キーを押すことにより、タイトルの上下にスペース行を追加することもできます。

この例では、タイトル テキストは次の要素で構成されています。

- 1 行のタイトル
- スペース
- 2 行のメニュー指示バナー

タイトルテキストはテキスト区切り文字（この例ではパーセント記号 (%)）で囲む必要があります。タイトルテキストの区切り文字は、スラッシュ (/)、二重引用符 (")、または波ダッシュ (~) などの、通常はタイトルのテキスト内に現れない文字です。通常はタイトルのテキスト内では使用されない文字であれば、どのような文字でも区切り文字として使用できます。Ctrl+C キーは特殊用途に予約されているため、タイトルのテキスト内では使用できません。

このタイトルテキストの例には、メニューを表示する前に画面をクリアするため、エスケープ文字シーケンスも含まれています。この場合、ストリング `^[H^[J` は、多くの VT100 互換端末で画面をクリアするために使用されるエスケープストリングです。このストリングを入力するには、Ctrl+V キーを入力してから、各エスケープ文字 (^[]) を入力する必要があります。

メニュー タイトルに端末固有のストリングを埋め込む代わりに、**menu clear-screen** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してメニューおよびサブメニューを表示する前に画面をクリアすることもできます。このオプションはルータ内で定義された **termcap** エントリとユーザの端末用に設定された端末のタイプに基づいて、端末に依存しないメカニズムを使用します。**menu clear-screen** コマンドを使用すると、メニュー タイトルの中に端末固有のストリングを埋め込まなくても、複数の端末のタイプで同じメニューを使用できるようになります。**termcap** エントリに **clear** ストリングが含まれていない場合、メニュー システムにより新たに 24 行が挿入され、既存のテキストすべてを端末画面の上部へスクロールさせてクリアします。

メニューを表示する前に画面をクリアするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router (config)# menu menu-name clear-screen	メニューおよびサブメニューを表示する前に、スクリーンをクリアするように指定します。

次に、OnRamp メニューまたはサブメニューを移動させる前に画面をクリアする例を示します。

```
Router (config)# menu OnRamp clear-screen
```

メニュー プロンプトの指定

メニュー プロンプトを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router (config)# menu menu-name prompt d prompt d	メニューのプロンプトを指定します。引数 <i>d</i> は、任意の区切り文字を表します。

メニュー項目テキストの指定

表示される各メニュー エントリは、選択キー（数字、文字、またはストリング）および実行されるアクションを説明するテキストで構成されています。最大 18 のメニュー項目に対し、説明テキストを指定できます。各メニュー エントリは、それぞれ 1 つのユーザ インターフェイス コマンドを表すため、メニュー項目テキストは 1 回につき 1 エントリずつ指定する必要があります。メニュー項目テキストを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name text menu-item menu-text	メニュー項目のテキストを指定します。

次に、OnRamp メニュー内の 3 つのエントリに対して表示されるテキストを指定する例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp text 1 Read email
Router(config)# menu OnRamp text 2 UNIX Internet Access
Router(config)# menu OnRamp text 9 Exit menu system
```

「ヘルプ サーバ」ホストを作成し、そのホストとの接続を確立するメニュー エントリを使用して、状況依存ヘルプへのアクセスを可能にできます。

メニュー選択キーは連続している必要はありません。特定の数字、文字、またはストリングをヘルプや終了などの特殊機能に割り当てることにより、メニュー内のメニュー エントリ数に関係なく複数のメニュー間に一貫性を持たせることができます。たとえば、メニュー エントリ H を、すべてのメニューでヘルプとして予約できます。

1 つのメニューで 9 個を超えるメニュー項目が定義された場合、**menu line-mode** および **menu single-space** グローバル コンフィギュレーション コマンドが自動的にアクティブになります。このコマンドは、9 項目以下のメニューに明示的に設定できます。これらのコマンドに関する詳細については、この章の「[メニュー表示設定オプションの指定](#)」の項を参照してください。

メニュー項目の下位コマンドの指定

ユーザが表示された各メニュー エントリのキーを入力すると、そのメニュー エントリにより、ユーザ インターフェイス コマンドが発行されます。各メニュー エントリに関連付けられるコマンドは、1 つだけです。下位のメニュー項目コマンドを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name command menu-item command	メニュー項目を選択したときに実行されるコマンドを指定します。

次に、OnRamp メニューの 3 つのエントリに関連付けられるコマンドを指定する例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp command 1 rlogin mailsys
Router(config)# menu OnRamp command 2 rlogin unix.cisco.com
Router(config)# menu OnRamp command 9 menu-exit
```

menu-exit コマンドは、メニューの中からだけ使用できます。このコマンドは、上位レベルのメニューへ戻るか、またはメニュー システムを終了するためにあります。

接続を確立できるメニュー項目の場合、そのメニュー項目には接続を再開するために使用できるエントリも含まれている必要があります。そのようなエントリが含まれていないと、接続からエスケープしてメニューに戻った後、セッションを再開する手段がありません。セッションは、ユーザがログアウトするまでアイドルになります。

ユーザが接続を再開できるようにメニュー エントリ内に **resume connection** ユーザ EXEC コマンドを構築するか、または **escape-char none** コマンドを使用して、ユーザがセッションからエスケープできないように回線を設定できます。

メニュー項目コマンドの一部として接続の再開を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name command menu-item resume [connection] /connect [connect string]	メニュー項目が選択されたときに resume コマンドが実行されることを指定します。

menu コマンドの中に **resume** コマンドを埋め込むと、ユーザは指名された接続を再開するか、またはその名前のアクティブな接続がなければ、指定された名前を使用して別の接続を確立できるようになります。オプションとして、初期接続に必要な接続ストリングを指定することも可能です。この接続ストリングを指定しない場合、指定された接続名がコマンドにより使用されます。

次のメニュー エントリで **resume** コマンドを使用できます。

- メニュー エントリに埋め込んで使用する。
- 独立した特定のメニュー エントリとして使用する。
- 複数の接続を順番に回る「ロータリー」メニュー エントリとして使用する。

次に、**menu** コマンドの中に **resume** コマンドが埋め込まれている例を示します。この例では、メニュー項目を選択すると、指定された接続セッションが（まだ開かれていなければ）開始されるか、または（すでに開かれたセッションがあれば）セッションが再開されます。

```
Router(config)# menu newmenu text 1 Read email
Router(config)# menu newmenu command 1 resume mailsys /connect rlogin mailsys
```

次に、特定の接続を再開するために、**resume** コマンドが独立したメニュー エントリ（エントリ 3）内で使用されている例を示します。

```
Router(config)# menu newmenu text 3 Resume UNIX Internet Access
Router(config)# menu newmenu command 3 resume unix.cisco.com
```

ユーザの接続リスト内の次の開いた接続を再開するには、**resume/next** コマンドを使用します。このコマンドにより、すべてのユーザ接続を進んでいく 1 つのメニュー エントリを作成できます。メニュー項目コマンドの一部として **resume/next** での接続の再開を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name command menu-item resume/next	resume/next での接続の再開を指定します。

次に、すべてのユーザ接続を進むために作成されたメニュー エントリ（エントリ 6）の例を示します。

```
Router(config)# menu newmenu text 6 Resume next connection
Router(config)# menu newmenu command 6 resume/next
```

メニューのデフォルト コマンドの指定

ユーザが項目を指定しないで Enter キーを押した場合、ルータによりデフォルト項目用のコマンドが実行されます。デフォルト項目を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name default menu-item	メニュー ユーザがメニュー項目を選択しなかった場合に実行されるコマンドを指定します。

サブメニューの作成

上位レベルのメニュー エントリを選択すると開くサブメニューを作成するには、**menu** コマンドを使用してライン メニュー エントリ内のメニューを呼び出します。サブメニュー項目コマンドを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Router(config)# menu menu-name text menu-item menu-text	サブメニューを呼び出すメニュー項目を指定します。
ステップ 2	Router(config)# menu menu-name command menu-item menu menu-name2	メニュー項目が選択されたときに使用されるコマンドを指定します。
ステップ 3	Router(config)# menu menu-name title delimiter menu-title delimiter	サブメニューのタイトルを指定します。
ステップ 4	Router(config)# menu menu-name text menu-item menu-text	サブメニュー項目を指定します。
ステップ 5	Router(config)# menu menu-name command menu-item command	サブメニュー項目が選択されたときに使用されるコマンドを指定します。必要に応じてこのコマンドを繰り返します。

次に、OnRamp メニュー内のサブメニューがメニュー項目（エントリ 8）でアクティブ化されるように指定する例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp text 8 Set terminal type
```

次に、OnRamp メニュー内でメニュー項目（エントリ 8）が選択されたときに実行されるコマンドを指定する例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp command 8 menu Terminals
```

次に、Terminals サブメニューのタイトルを指定する例を示します。

```
Router(config)# menu Terminals title /  
Supported Terminal Types
```

```
Type a number to select an option;  
Type 9 to return to the previous menu.
```

次に、Terminals サブメニューのサブメニュー項目を指定する例を示します。

```
Router(config)# menu Terminals text 1 DEC VT420 or similar  
Router(config)# menu Terminals text 2 Heath H-19  
Router(config)# menu Terminals text 3 IBM 3051 or equivalent  
Router(config)# menu Terminals text 4 Macintosh with gterm emulator  
Router(config)# menu Terminals text 9 Return to previous menu
```

次に、Terminals サブメニューの項目に関連付けられるコマンドを指定する例を示します。

```
Router(config)# menu Terminals command 1 term terminal-type vt420  
Router(config)# menu Terminals command 2 term terminal-type h19  
Router(config)# menu Terminals command 3 term terminal-type ibm3051  
Router(config)# menu Terminals command 4 term terminal-type gterm  
Router(config)# menu Terminals command 9 menu-exit
```

メインメニューでエントリ 8 を選択すると、次の Terminals サブメニューが表示されます。

```
Supported Terminal Types
```

```
Type a number to select an option;
```

Type 9 to return to the previous menu.

- 1 DEC VT420 or similar
- 2 Heath H-19
- 3 IBM 3051 or equivalent
- 4 Macintosh with gterm emulator
- 9 Return to previous menu



(注) メニューに多くのレベルをネストし過ぎると、システムにより端末にエラー メッセージが表示され、前のメニュー レベルに戻ります。

非表示メニュー エントリの作成

非表示メニュー エントリとは、選択キーは含まれているものの、実行されるアクションを説明するテキストがないメニュー項目のことです。ユーザにヘルプを提供するシステム管理者を支援するために、このタイプのメニュー エントリを含めます。通常の手順は、メニュー コマンドを指定し、項目のテキスト指定を省略します。非表示メニュー項目を作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name command menu-item <i>command</i>	非表示メニュー エントリが選択されたときに使用されるコマンドを指定します。

次に、OnRamp メニューのサブメニュー エントリに関連付けられたコマンドの例を示します。

```
Router(config)# menu OnRamp command 7 show whoami
```

show whoami コマンドに追加テキストが付加されている場合、そのテキストが回線に関するデータの一部として表示されます。たとえば、このコマンドによって作成された非表示メニュー エントリ、

```
Router(config)# menu OnRamp command 7 show whoami Terminals submenu of OnRamp Internet Access menu
```

は次のような情報を表示します。

```
Comm Server "cs101", Line 0 at 0 bps. Location "Second floor, West"
Additional data: Terminals submenu of OnRamp Internet Access menu
```

メニュー表示により画面がクリアされたときにこの情報が失われないようにするために、このコマンドは戻る前に常に --More-- プロンプトを表示します。

メニュー表示設定オプションの指定

menu clear-screen グローバル コンフィギュレーション コマンド (「[メニュー タイトルの指定](#)」の項で説明) に加えて、次の 3 つの **menu** コマンドによりメニュー機能が定義されます。

- **menu line-mode**
- **menu single-space**
- **menu status-line**

ライン モードで動作するメニューの設定

項目が 9 個以下のメニューでは、通常、項目の番号または文字を入力してメニュー項目を選択します。ライン モードでは、項目キーを入力して Enter キーを押すことで、メニュー エントリを選択します。ライン モードでは、Backspace キーで選択を取り消し、別の項目を選択してから Enter キーを押してコマンドを発行できます。この機能により、コマンドを呼び出す前に選択を変更できます。

ライン モードで動作するようにメニューを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name line-mode	メニュー項目の入力にライン モードを使用するようにメニューを設定します。

ラインモード オプションは、定義されているメニュー項目が 9 個を超える場合は自動的に呼び出されますが、項目が 9 個以下のメニューでも、明示的に設定できます。

選択キーとしてストリングを使用するには、**menu line-mode** コマンドをイネーブルにする必要があります。

シングルスペース メニューの表示

メニュー項目が 9 個以下の場合、Cisco IOS ソフトウェアは、通常、ダブルスペースで区切ってメニュー項目を表示します。項目が 9 個を超えるメニューでは、メニューを通常 24 行の端末画面に収めるために **single-space** オプションは自動的にアクティブになります。ただし、項目が 9 個以下のメニューでも、**single-space** オプションを明示的に設定できます。

single-space オプションを使用してシングルスペースで区切られたメニューを表示するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name single-space	シングルスペース区切りで表示されるようにメニューを設定します。

情報ステータス行の表示

status-line オプションでは、メニュー タイトルが表示される前に、端末画面の一番上の行に現在のユーザに関するステータス情報が表示されます。ステータス行には、ルータのホスト名、ユーザの回線番号、および現在の端末のタイプとキーマップのタイプ（ある場合）が表示されます。

informational status line を表示するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name status-line	ステータス行を表示するように指定されたメニューを設定します。

項目ごとのメニュー オプションの指定

項目ごとのメニュー オプションを設定するには、必要に応じてグローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# menu menu-name options menu-item pause	ユーザが指定されたメニュー項目を選択した後、一時停止するようにシステムを設定します。このコマンドは、一時停止するメニュー項目ごとに 1 回ずつ入力します。
Router(config)# menu menu-name options menu-item login	コマンドを実行する前に、ログインが要求されるように指定されたメニュー項目を設定します。このコマンドは、ログインを要求するメニュー項目ごとに 1 回ずつ入力します。

メニューの呼び出し

メニューを呼び出す（メニューにアクセスする）には、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router# menu menu-name	設定済みのユーザ メニューを呼び出します。

特権 EXEC コマンドが含まれるメニューも定義できますが、そのメニューを起動するユーザは特権アクセスを持っている必要があります。

回線上でメニューが確実に自動的に呼び出されるようにするには、ユーザ自身では操作できないインターフェイスにユーザを取り残してしまう終了パスがメニューに含まれていないことを確認してから、**autocommand menu menu-name** ライン コンフィギュレーション コマンドでその回線を設定します（**autocommand menu menu-name** コマンドは、回線上でユーザが接続を開始したときに、**menu menu-name** コマンドが自動的に実行されるように回線を設定します）。

autocommand コマンドをローカル ユーザ名に定義することにより、ユーザ単位でメニューが呼び出されるようにすることもできます。

次に、OnRamp メニューが呼び出される例を示します。

```
Router# menu OnRamp

Welcome to OnRamp Internet Services

Type a number to select an option;
Type 9 to exit the menu.

1 Read email
2 UNIX Internet access
3 Resume UNIX connection
6 Resume next connection
9 Exit menu system
```

コンフィギュレーションからのメニューの削除

コンフィギュレーションからメニューを削除するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
Router(config)# no menu <i>menu-name</i>	メニュー名を指定してメニューを削除します。

メニューを再度使用するには、メニュー全体を再設定する必要があります。

次に、コンフィギュレーションから OnRamp メニューを削除する例を示します。

```
Router(config)# no menu OnRamp
```

接続管理、システム バナー、およびユーザ メニュー コンフィギュレーションの例

ここでは、次の例について説明します。

- 「ログイン ユーザ名およびパスワードの変更：例」 (P.22)
- 「他の端末へのメッセージの送信：例」 (P.23)
- 「TCP/IP 接続のクリア：例」 (P.23)
- 「バナーの設定：例」 (P.24)
- 「SLIP-PPP バナー メッセージの設定」 (P.11)
- 「メニューの設定：例」 (P.25)

ログイン ユーザ名およびパスワードの変更：例

次に、ログイン ユーザ名およびパスワードの変更方法の例を示します。この例では、**user1** というユーザ名で現在ログインしているユーザが、ログイン名を **user2** に変更しようとしています。**login** コマンドを入力した後、ユーザは新しいユーザ名を入力していますが、誤ったパスワードを入力しています。入力したパスワードが元のパスワードと一致しないため、システムによりユーザ名の変更が拒否されます。

```
Router> login
Username: user2
Password:
% Access denied
Still logged in as "user1"
```

次に、ユーザは **user2** というユーザ名を使用して再びログインの変更を試み、今回は正しい（元の）パスワードを入力します。今度はパスワードが現在のログイン情報に一致したため、ログイン ユーザ名が **user2** に変更され、ユーザはユーザ ログイン情報にアクセスすることを許可されました。

```
Router> login
Username: user2
Password:
Router>
```

他の端末へのメッセージの送信：例

次に、ルータのすべての端末接続へメッセージを送信する例を示します。

```
Router# send *
Enter message, end with CTRL/Z; abort with CTRL/C:
this is a message^Z
Send message? [confirm]
Router#
```

```
***
***
*** Message from tty50 to all terminals:
***
this is a message
```

```
Router#
```

TCP/IP 接続のクリア：例

次に、TTY 回線番号を使用して TCP 接続をクリアする例を示します。**show tcp EXEC** コマンドにより、**clear tcp** 特権 EXEC コマンド モードで使用された回線番号 (TTY2) が表示されます。

```
Router# show tcp

tty2, virtual tty from host router20.cisco.com
Connection state is ESTAB, I/O status: 1, unread input bytes: 0
Local host: 171.69.233.7, Local port: 23
Foreign host: 171.69.61.75, Foreign port: 1058

Enqueued packets for retransmit: 0, input: 0, saved: 0

Event Timers (current time is 0x36144):
Timer           Starts    Wakeups      Next
Retrans          4         0            0x0
TimeWait         0         0            0x0
AckHold          7         4            0x0
SendWnd          0         0            0x0
KeepAlive        0         0            0x0
GiveUp           0         0            0x0
PmtuAger         0         0            0x0

iss: 4151109680  snduna: 4151109752  sndnxt: 4151109752    sndwnd: 24576
irs: 1249472001  rcvnxt: 1249472032  rcvwnd: 4258         delrcvwnd: 30

SRTT: 710 ms, RTTO: 4442 ms, RTV: 1511 ms, KRTT: 0 ms
minRTT: 0 ms, maxRTT: 300 ms, ACK hold: 300 ms
```

```
Router# clear tcp line 2
```

```
[confirm]
[OK]
```

次に、ローカル ルータのホスト名とポート、およびリモート ルータのホスト名とポートを指定することにより、TCP 接続をクリアする例を示します。**show tcp brief** 特権 EXEC コマンドにより、**clear tcp** 特権 EXEC コマンド内で使用するローカル (Local Address) およびリモート (Foreign Address) のホスト名およびポートが表示されます。

```
Router# show tcp brief

TCB          Local Address          Foreign Address      (state)
60A34E9C     router1.cisco.com.23   router20.cisco.1055 ESTAB

Router# clear tcp local router1 23 remote router20 1055

[confirm]
[OK]
```

次に、TCB アドレスを使用して TCP 接続をクリアする例を示します。**show tcp brief EXEC** コマンドにより、**clear tcp EXEC** コマンド内で使用する TCB アドレスが表示されます。

```
Router# show tcp brief

TCB          Local Address          Foreign Address      (state)
60B75E48     router1.cisco.com.23   router20.cisco.1054 ESTAB

Router# clear tcp tcb 60B75E48

[confirm]
[OK]
```

バナーの設定 : 例

次に、**banner** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、サーバに新しいソフトウェアがリロードされようとしていることをユーザに通知する方法の例を示します。**no exec-banner** ライン コンフィギュレーション コマンドは、VTY 回線上の EXEC バナーと Message-of-The-Day バナーをディセーブルにするために使用されます。

```
!
line vty 0 4
  no exec-banner
!
banner exec /
  This is Cisco Systems training group router.

  Unauthorized access prohibited.
  /
!
banner incoming /
  You are connected to a Hayes-compatible modem.

  Enter the appropriate AT commands.
  Remember to reset anything you have changed before disconnecting.
  /
!
banner motd /
  The router will go down at 6pm today for a software upgrade
  /
```

ユーザがルータに接続すると、ログイン プロンプトの前に MOTD バナーが表示されます。ユーザがルータにログインした後、接続のタイプに応じて EXEC バナーまたは着信バナーがルータに表示されます。リバース Telnet ログインの場合、ルータに着信バナーが表示されます。その他すべての接続の場合、ルータに EXEC バナーが表示されます。

バナー トークンを使用した SLIP-PPP バナーの設定 : 例

次に、複数のトークンと区切り文字であるパーセント記号 (%) を使用して SLIP-PPP バナーを設定する例を示します。

```
Router(config)# banner slip-ppp %
```

```
Enter TEXT message. End with the character '%'.
Starting $(encap) connection from $(gate-ip) to $(peer-ip) using a maximum packet size of
```

```
$(mtu) bytes... %
```

ユーザが **slip** コマンドを使用すると、ユーザは次のバナーを見ることになります。**\$(token)** 構文が対応する設定変数に置き換えられていることに注意してください。

```
Starting SLIP connection from 192.168.69.96 to 172.16.80.8 using a maximum packet size of
1500 bytes...
```

メニューの設定 : 例

次に、メニュー ユーザが **Telnet** を使用して 3 つの異なるマシンのいずれかにアクセスすることを許可する例を示します。ユーザは **show user EXEC** コマンドの出力を表示してメニューを終了することもできます。システム管理者は、1 つの非表示メニュー項目 (menu new command here show version とし設定) で現在のソフトウェア バージョンを表示できます。

```
menu new title ^C
```

```
Telnet Menu
```

```
^C
```

```
menu new prompt ^C
```

```
Please enter your selection: ^C
```

```
menu new text 1 telnet system1
```

```
menu new command 1 telnet system1
```

```
menu new options 1 pause
```

```
menu new text 2 telnet system2
```

```
menu new command 2 telnet system2
```

```
menu new options 2 pause
```

```
menu new text b telnet system3
```

```
menu new command b telnet system3
```

```
menu new options b pause
```

```
menu new text me show user
```

```
menu new command me show user
```

```
menu new options me pause
```

```
menu new command here show version
```

```
menu new text Exit Exit
```

```
menu new command Exit menu-exit
```

```
menu new clear-screen
```

```
menu new status-line
```

```
menu new default me
```

```
menu new line-mode
```

```
!
```

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2007 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2007–2011, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.